

# 子どもを見守る視点 ～この子だってきっと心配しているだろう～

令和2年5月19日  
京都市立山階小学校  
校長 岡 恵子  
SC 古市 貴子

新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明な状況が続いています。こういった状況においても、子どもはいつもと変わらないように見えることがあります。

しかしながら、一見元気そうに見えても実は不安を抱えていて、言い出せずにいる、とても怖がっているということがあります。子どもはいつも親や周りの様子を注意深く見ていて、なるべく親や大人の困らな

い、褒められるような行動をしようとすることがあります。低学年であれば怒られるのが怖いから言い出せない、高学年であれば、いい子にしていれば褒められるからちゃんとしよう、そうやって我慢をしていることがよくあります。このように自分を出せずに無理して頑張ると、いずれ心身に支障をきたします。

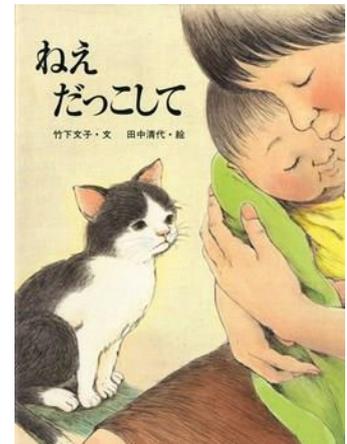
しっかりしているから大丈夫、元気そうだから問題ないだろうではなく、「きっと不安を抱えている」、「この子なりに心配しているだろう」という視点で子どもを見、声をかける、関わるように心がけましょう。それだけで、子どもはとても安心し、自分の気持ちを言い出しやすくなります。



今回「ねえ、だっこして」という絵本を紹介します。

飼い猫が新しい赤ちゃんを抱っこするお母さんの周りをうろうろ。猫だって自分も抱っこしてほしい。でももう大きくなったから自分は平気だもんと強がって我慢します。猫は、日頃お母さんのために、他の兄弟のために、しっかりとして我慢する子どもの気持ちを代弁しているようです。

「ねえだっこして」 竹下文子作・田中清代絵 金の星社  
(2004)



「しっかりしている」「わがママを言わない」「聞き分けがいい」

こういった大人にとって都合のいい、聞き分けのいい子は見逃されがちです。こういった時にこそ、普段特に問題がないなと思う子にも、目をかけていきましょう。